

「モビリティ・マネジメント教育のすすめ」の改訂について

【公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 岡本英晃】

「モビリティ・マネジメント教育のすすめ～持続可能な社会のための交通環境学習～」の改訂版が今年の3月に完成しました。これまで使用してきた「モビリティ・マネジメント教育のすすめ」は2010年度に作成したものです。当時はモビリティ・マネジメント教育(以下、「MM教育」)の実践事例が少なく、MM教育に関連しそうなまちづくり学習の事例などを掲載していました。

その後2022年度までに、13の自治体、115校への支援を行い、工夫やアイデアが詰まった実践事例が蓄積されてきました。一方で学校教育現場では、新しい学習指導要領が小学校では2020年度、中学校では2021年度から全面実施、高等学校では2022年度の入学生から年次進行で実施されています。MM教育もこの新しい学習指導要領に対応していかなければいけないということで、今回の改訂となりました。

今回の改訂ではまず、8件の実践事例を掲載しました。小中高等学校だけでなく特別支援学校の事例も載せ、教科も社会科や総合的な学習(探究)の時間だけでなく理科や数学など多岐にわたる教科での実践事例を掲載しています。その他には多くの学校・教員のみなさまが関心のあるSDGsとの関連性を、SDGsの目標・ターゲットとMM教育に関連する教科・単元でまとめ、さらには実際に授業を实践された先生や授業を受けた児童の感想も掲載し、少しでも多くの教員の方が「やってみたい」、「このような実践だと自分でもできる」と思っただけのように工夫をしました。交通分野においては、減便や廃線などネガティブな状況もありますが、本書の中ではLRTや連節バス、燃料電池バス、自動運転バスなど明るい未来を創造できるような内容としました

パンフレットの改訂だけでMM教育が普及していくとは思っていません。次は少しでも多くの方、特に多くの教員の手元に行き渡るようにしていきたいと思えます。

※「モビリティ・マネジメント教育のすすめ」は下記からダウンロードできます
http://mm-education.jp/pdf/mm_catalogue2304.pdf